

— 大会プログラム —

受付 9:00～

開会の辞 9:30～9:35

I. 一般研究発表（発表 10 分・質疑 4 分）

座長 岡野 亮介（至誠館大学）
9:35～9:49

1. 総合型地域スポーツクラブのマネジメントに関する事例報告 —萩市・至誠館クラブの設立から現在まで—

岡崎 祐介(至誠館大学)・井川 貴裕(至誠館大学)

萩市の至誠館大学を拠点に活動する総合型地域スポーツクラブ・至誠館クラブの設立から現在までの取組について紹介し、その中でみえてきた課題と今後のクラブの将来像について発表する。至誠館クラブは平成 30 年 11 月に発足し設立から 1 年が経過した。会員数は令和元年 11 月現在 136 名。現在は 7 つの教室と不定期にスポーツの体験会などイベントを実施しながら活動をしている。本発表では、萩市における総合型地域スポーツクラブの課題と今後の地域における役割やその可能性について言及する。

キーワード：総合型地域スポーツクラブ、萩市、地域スポーツ、地域活性化

9:50～10:04

2. 大正期の青年団教育に関する研究 —少年義勇団を中心に—

船場 大資（山口芸術短期大学）

本稿は大正期における青年教育及び身体教育について考察することを目的とする。青年教育はエリート教育機関だけでなく民間の青年団でも行われていた。とりわけ、青年教育の中心となった人物が山本瀧之助であった。山本は、明治期には統率のとれていなかった村の青年たちを指導し、銃後活動で国家へ貢献する青年団体を形成した。大正期には国家の青年教育の政策にも関与していく。その活動は、銃後活動にとどまらずボーイスカウトの規則を青年団の規則に取り入れるなど、集団訓練も行った。さらに言えば、青年たちに公民活動を教えるなど、高等教育に進学できない多くの青年の素養の啓発に努めた。

こうした観点から山本の青年教育が、昭和期にどのような役割を果たしたのか考察する。
キーワード：青年団、少年義勇団

座長 丹 信介（山口大学教育学部）
10:06～10:20

3. 軽度な運動の実践による冷え症状の変化に関する予備的研究

山崎 文夫(山口県立大学)

日常における体の冷えは女性に多い不定愁訴の 1 つである。冷えの改善の方策には、多機能食品の摂取やマッサージ等が提案されているが、運動の効果については不明な点が多い。本研究では、体の冷えの自覚症状に及ぼす運動の効果を明らかにするために、女子大学生を対象として 3 ヶ月間にわたって軽強度の運動介入を実施した。その介入の前後で、体の冷えや心身の状態に関するアンケート調査および体組成と筋力の測定を行った。冷えの自覚症状の程度を示すスコアは運動介入によって有意に減少した。運動介入によって体脂肪率の減少傾向と筋肉率の増加傾向、並びに背筋力と両脚伸展筋力の増加が認められた。

キーワード：冷え症、運動、筋力

4. 体育授業が疲労感および集中力に及ぼす影響に関する検討

大下凌矢(山口大学)、古川礼乃(山口大学)、高木菜美恵(山口大学教育学部附属光中学校)、斉藤雅記(山口大学)、丹 信介(山口大学)、曾根涼子(山口大学)

中学1年生を対象として、1限目に体育授業(体づくり運動)を実施した場合と、基本的には座学の授業を実施した場合(対照条件)について、始業から終業までの疲労感および集中力を比較検討した。体育授業は運動時間が40%と60%の場合の2回行った(40%条件および60%条件)。体育授業全体の主観的なきつさは平均で「楽である」から「ややきつい」であった。2限目以降について、疲労感には条件間に有意差はなかった。授業集中力には条件間に有意差が認められ、集中力は40%条件に比べて60%条件の方が有意に高かった($p < 0.05$)。また、疲労感と授業集中力の間には有意な関係があることが認められた($r = -0.379$, $p < 0.01$)。

キーワード：体育授業、疲労感、集中力

10:36~10:50

5. CLILの視点を取り入れた英語による体育実技授業の試み(3)

—英語を使用したバスケットボールの授業を事例として—

伊藤耕作(宇部工業高等専門学校)・二五義博(海上保安大学校)

現在日本では、外国語の効果的な習得方法の1つとして、CLIL(内容言語統合型学習)が注目されつつある。CLILとは「内容と言語」の同時取得に加え、「思考」や「協学」の要素も取り入れた、より質の高い学びを目指す学習者中心の指導方法のことである。他教科内容との組合せとしては、英語と算数、理科や社会とは既に実践例があるが、実技教科、とりわけ、体育を事例とした研究はまだ少ない。そのような中、伊藤・二五は、サッカー(2017)とバレーボール(2018)を事例として取り上げ、主にCLILの4Cの視点からの分析により、体育と英語の教科横断的授業による利点や課題を明らかにしてきた。本発表はその第3弾として、バスケットボールの内容を英語で学ぶことが、内容への動機づけ、コミュニケーション能力育成、思考や協同学習の視点でいかなる効果があるかを探る。

キーワード：教科横断的授業、CLIL、バスケットボール

11:00~12:00

II. 特別講演

座長 杉浦 崇夫(山口大学教育学部)

「スポーツ指導における体罰行動の生起と抑制に関する心理と教育」

岡村 豊太郎 先生

東亜大学大学院総合学術研究科客員教授(山口大学名誉教授)

1997年、九州スポーツ心学会が「体罰に代わる効果的な指導法」というテーマでシンポジウムを行い、筆者が司会を務めた。翌年、同学会において下記のようにまとめて講演をした。即ち、体罰行動は、反動的攻撃であり、フラストレーション攻撃行動であること、効果はあるが指導ではないこと、体罰の日常化が指導者と生徒にマイナス効果をもたらすこと等である。体罰行動は、心理学的には、攻撃行動のことであり、道具的攻撃と反動的攻撃を含む。Kレヴィンは、人間の行動は、人と環境の関数であるとして、 $B = F(P, E)$ という数式で示した。体罰の抑制には、指導者であるPと同時にEとしての受講生の体罰容認態度を減ずることが重要となる。そこで、スポーツ健康学科の学生を対象に、担当する授業で体罰抑制に関する講義をし、体罰容認態度者の減少を試みた。その結果、体罰体験者の態度変容は頑強であり、攻撃行動が反動的攻撃だけでなく実質の道具的攻撃を含むものと解釈された。これらの知見をもとに、体罰行動の生起と抑制に関する心理的教育的な考察をおこなう。

Ⅲ. 総 会

12:05～

報告事項

1. 平成 30(2018)年度会計報告
2. 令和元(2019)年度事業および会計経過報告
3. 令和元(2019)年度日本体育学会報告
4. その他

協議事項

1. 令和 2(2020)年度事業計画について
2. 令和 2(2020)年度会計予算について

以上

【 演者の方へ 】

- パワーポイントを使って発表される演者の方は、PC (OS: Windows) とプロジェクターをこちらで用意いたします。ただし、ソフトは、PowerPoint 2016 ですのでご注意ください。
- プリントを配布される方は、資料を 30 部ほど各自でご用意ください。
- これら以外の方法で発表される方は、事務局までご連絡ください。

※ 大会参加費について ※

- 会員の方と学生は無料です。
- 非会員の方は、当日会員として¥1,000 を受付にお支払い下さい。
- 特別講演のみの聴講は無料です。

※山口県体育学会員の方は、年会費(¥2,000)の納入をお願いします。

【 お知らせ 】

『山口県体育学研究』第 63 号への投稿を募集しています。
なお、投稿についての詳細は、『山口県体育学研究』の「投稿規定」をご覧ください。

投稿申し込み期限：令和 2 年 3 月末日

山口県体育学会事務局

〒753-8513 山口市吉田 1677-1
山口大学教育学部曾根研究室内

電話・FAX:083-933-5389

E-mail:sone@yamaguchi-u.ac.jp